



## 『ROAD TO 2020～組織委員会／スポーツマネジャーからのメッセージ～』

### 「オリンピックに向けて」

東京オリンピックの開会式まで、とうとう 500 日を切りました。すでに晴海の選手村は、大会当日をイメージできるところまでに至っています。

2月のFIE理事会出張時に、FIE事務局にも訪れ、スタッフと会議を行いました。たくさんの対話を通じて、TOKYO2020とFIEとの準備も着々と進んでおり、フェンシング界全体のワクワク感が高まっているように感じます。そのような中、この寄稿を書き始めて1年が経とうとしています。それまでは私1人で担当していたものが、1年前の春から、新たに2名加わり、現在は人やサービスのすべてを統括し計画している「サービスマネージャー」と、会場や機材のすべてを統括し管理している「テクニカルオペレーションマネージャー」との3名体制で日々準備に取り組んでいます。これまでの振り返ると、フェンシングは会場変更から始まり、幕張メッセに決まってからも色々な課題を抱え、不安なことも多々ありましたが、関係者との密な打ち合わせを通し、その都度壁を乗り越えてきました。日本国内においても、千葉県での学校イベント、グローブ座での全日本選手権の開催、エベジュニアワールドカップの誘致と開催、各種イベントへの参加など、太田会長の推進力に引っ張られ、フェンシングを広く知ってもらおう活動をたくさん行ってきました。また、今年は4月3日以降の大会を皮切りに、東京オリンピックへの出場をかけたランキングレース

がいよいよ始まります。日本国内でも6月のアジア選手権大会、12月の高円宮杯といったオリンピック前の大規模な大会が予定されています。両大会とも、東京オリンピックへの出場をかけて、これまで以上に白熱した試合展開が繰り広げられることでしょう。ここで、オリンピックの出場条件を振り返ると、下記の通りになります。

※1種目当たり

○団体種目枠（最大9か国）

- ・世界ランキング上位 4か国
- ・各大陸別1位 4か国（ヨーロッパ、アジア・オセアニア、アメリカ、アフリカ）
- ・開催国枠 1か国（上記8か国に日本チームがランクインされなかった場合）

○個人種目枠（最大34～37名）

- ・団体種目枠獲得国 24名（8か国×3名）
- ・各大陸別1位及び2位 6名（ヨーロッパ2名、アジア・オセアニア2名、アメリカ1名、アフリカ1名）
- ・大陸別最終予選\* 4名（ヨーロッパ、アジア・オセアニア、アメリカ、アフリカ）
- ・開催国枠 1名（上記34名に日本人選手がランクインされなかった場合）

\*大陸別最終予選：団体種目枠や各大陸別1位（及びヨーロッパ・アジアオセアニアについては2位も含まれる）にて、出場資格を得られなかった国の選手が1種目につき1名だけ出場できる、オリンピックの出場資格をかけた大会。このように、団体種目で出場権を獲得すれば、団体種目出場者の3名は自動的に個人種目への出場権も獲得できることとなりますが、団体種目で出場権を獲得することは極めて厳しい戦いになります。一方で、開催国へ特別に与えられた開催国枠は全体で8名のみです。単純に全12種目に割り当てたり、団体種目への割り当てを検討したりすれば、8名という数字は決して大きくなく、自力で出場権を獲得することは極めて重要であることはさることながら、開催国枠のメンバーに入ることもいかに狭き門かと想像がつかます。

先日、男子エペチームがブエノスアイレスで行われたワールドカップで優勝しました。当然このチームへの期待が膨らみますが、彼らの功績はそれだけにとどまりません。共に切磋琢磨してきた仲間の勝利と喜びに満ちた姿は、そのほかの選手たちにとって、オリンピックレース直前の良い刺激と影響を与えてくれたと思います。

今度は、この日本で、オリンピックという最高峰の舞台の上で、全12種目によって繰り広げられる感動の一つ一つを、皆さんと分かち合えたらと思います。

今回が最後の寄稿となりました。寄稿は得意でなく、拙い文章で読みづらかったことと思いますが、最後までご一読いただきまして本当にありがとうございました。引き続き、皆さまからの温かいご声援、ご協力をお願いします。

2020年7月25日から8月2日まで、幕張メッセで皆様とお会い出来る日を、心から楽しみにしております。